NIE

年　組　名前

道新でワークシート

食事作るのは「女性」87%

性別による役割 意識改革進まず

全国世論調査

日本世論調査会が実施した「食と日本社会」を巡る全国郵送世論調査で、家で食事を作る人の性別は「どちらかといえば」を含め計87%が女性と回答し、男性の計12%を大きく上回った。新型コロナウイルス禍で食事を作る人の負担が増えたと思う人は44%。性別役割分担の意識改革や家事労働の在り方を問い直す議論が進む中、依然として炊事の役割が女性に偏る実態が浮かび上がった。

母親は手作りするべきかを問うと「するべきだ」は23%にとどまり、「する必要はない」が75%に上った。昨年、ポテトサラダを買おうとした子連れ女性が高齢男性に非難されたとして、インターネット上で話題となった「ポテサラ論争」を踏まえて尋ねた。母親ら女性の手作りにこだわる考えは、今後の日本社会で「減っていく」が59%、「変わらない」が35%だった。

コロナ禍の食生活に満足していない人は「どちらかといえば」を合わせて計45%。理由は、飲食店の休業などで「自由に外食することができない」42%と、会食自粛で「人とのコミュニケーションが減った」39%で大半を占めた。

食に対する意識の変化（二つまで回答）は「コミュニケーションが大切だと思うようになった」30%、「規則正しく、健康的な食事を心掛けるようになった」26%。コロナ後も継続したいこと（二つまで回答）は「家族と一緒に食べる」が51%で最も多かった。

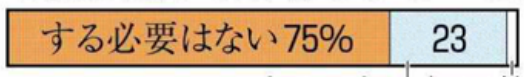
子ども食堂が全国で増える中、子どもの食の貧困が深刻だと思う人は81%。問題解消に必要なことは、行政の金銭的支援の29%など公助を求める声が多い一方、「家族・親族による努力」も20%に上った。

「孤食」に関しては、1週間のうち1日全ての食事を1人で食べる日数は「ほとんどない」が69%、「ほとんど毎日」が14%。孤食の理由は「相手がいない」が最も多かった。

「食品ロス」問題で気を付けていること（二つまで回答）は「余分な食品・食材は買わない」77%と、「食品・食材は廃棄せずに食べる」72%に集中した。

調査は6～7月、18歳以上の男女3千人を対象に実施した。

母親は食事を手作りするべきか



女性の手作りにこだわる考えはどうなっていくか

※四捨五入のため合計が100%にならない場合がある

２０２１年8月１7日（火）夕刊　全道版　総合面　１P（記事は一部再編集しています）

① ＿＿＿線「高齢男性に非難された」とありますが、この男性は母親に向かってどのように非難したと考えられますか。実際に話すように書きなさい。

②食事は女性が手作りするべきだという人が減っていけば、どのような社会になっていくと考えられますか。３０字程度で書きなさい。

																17
												30				34